

# 日朝関係を中心とした近代史

## 1, 征韓論争

①1873 [1 **征韓**] 論争…岩倉遣欧使節の留守政府が[2**不平士族**] の不満を朝鮮侵略に振り向けることを画策

中心人物 [3**西郷隆盛**] (薩摩)[4**江藤新平**] (肥前)[5 **板垣退助**] [6 **後藤象二郎**] (土佐)ら



遣欧使節から帰還した岩倉や[7**大久保利通**] の反対で挫折→征韓派参議ら5人辞職  
([8 **明治六年の政変**])

辞職した参議たちのその後

西郷を除く4人…愛国公党を結成→1874 [9 **民権議院設立建白書**] を上申→自由民権運動

〜  
争  
〜

不平士族の反乱を起こす…江藤新平(→1874[10**佐賀**] の乱)、西郷隆盛…1877[11**西南**] 戦

自由民権運動…[12**板垣退助**]・後藤…立志社(1874)→国会期成同盟(1880)→自由党(1891)

## 2, 台湾出兵と江華島事件

ア)1874 [13 **台湾出兵**] …台湾の先住民が、[14**琉球**] の漁民を殺害したことに対し、軍を台湾に派遣

イ)1875(明治8) [15 **江華島**] 事件…朝鮮近海で挑発的行動をとっていた日本軍艦に江華島の朝鮮砲台が発砲、日本軍がこれに応戦して発生した紛争。

→1876 [16 **日朝修好条規**] (江華条約)で不平等条約をおしつける。

日朝修好条規…[17**江華島**] 事件をうけ、1876年締結された条約。釜山など3港の開港、日本の領事裁判権・[18 **関税免除**]・開港地での日本の貨幣の使用などをみとめた[19**不平等条約**]。

## 3, 壬午軍乱・甲申事変

朝鮮国内の改革をめぐるグループが日・清両国とむすびつく

- ・大院君(A) = 鎖国論…自主独立をめざす保守派→しだいに権力への執着と閔妃への反発が前に
- ・閔妃(B) = [20 **事大党**] …開国論・富国強兵→最初は日本に好意を持つが、清・ロシアに接近
- ・[21 **独立**] 党(C) = [22**金玉均**]・朴泳孝…日本をモデルとした改革をめざす。福沢諭吉と近い

ア)1882(明治15) [23 **壬午**] 軍乱

日本に接近した[24 **閔妃**] ら(B)に対する[25 **大院君**] (A)を支持する軍隊・民衆の反乱  
→おもに清軍に鎮圧される。→閔妃は清に接近

イ)1884(明治17) [26 **甲申**] 事変…日本の支持下に[27 **金玉均**] ら独立党がクーデタを起こす  
→清の介入により失敗→日清関係の悪化(1885[28 **天津**] 条約で妥協成立)

[29 **脱亜**] 論…甲申事変失敗に衝撃を受けた[30 **福沢諭吉**] が発表した考え。31 **アジアとの連帯** を拒絶し、朝鮮中国への武力での対応を支持、32 **欧米列強への仲間入り** を主張した。

大阪事件…自由党左派の大井憲太郎らが、朝鮮に渡り、保守派政権を倒そうとして、検挙された事件。  
自由民権運動の[33 **国権**] 化の一環とされる。

## 4, 日清戦争

①1894(明治27) [34 **日清**] 戦争…

ア)朝鮮での[35 **甲午農民**] 戦争→朝鮮政府 清への援助要請→日本も出兵→農民軍を鎮圧  
→両国、朝鮮の内政改革をめぐる対立→7月25日 開戦

甲午農民戦争…朝鮮南部で発生した、[36**東学**] の信者を中心とした反封建・排日的な農民反乱

イ)戦況…日本の奇襲攻撃で始まる。日本軍の圧倒的優勢に

ウ)[37 **1895**] 年4月[38 **下関**] 条約締結 伊藤博文・[39 **陸奥宗光**] ←→李鴻章

ア)朝鮮の「[40 **独立**]」承認

イ)[41 **遼東**] 半島(→三国干渉で返還)、[42 **台湾**]、澎湖島

ウ)2億両(テール)の[43 **賠償金**] 支払い

エ)四港の開港、外国企業の設立許可←諸列強の要求を代弁する内容

## 5, 両戦争間の状況

①[44 **閔妃殺害**] 事件の発生→朝鮮は[45 **ロシア**] に接近、国名を[46 **大韓帝国**] (韓国)に改称

閔妃殺害事件…日本の公使三浦梧楼が王妃で反日派の中心である閔妃を殺害させた事件

②[47 **ロシア**] との対立の激化

ロシアのねらい…中国東北部([48 **満州**])への勢力拡大と、[49 **朝鮮**] 半島への進出をめざす

→日本による[50 **朝鮮**]、さらに満州進出([51 **遼東**] 半島獲得)に強い危機感をもつ

ア)[52**三国干渉**] …ロシアは[53**ドイツ**] [54**フランス**] とともに圧力をかけ[55 **遼東**] 半島を返却させる

→日本内の反[56 **ロシア**] 感情の高まり([57 **臥薪嘗胆**] のスローガンの高まり、軍拡の進行)

## 5, 両戦争間の状況(2)

② イ) ロシア… [1 遼東] 半島南部の旅順・大連を租借

[2 シベリア] 鉄道の開通、さらに連結する [3 東清] 鉄道の敷設

シベリア鉄道(+東清鉄道)の持つ意味…ロシア本土からの物資・兵員の極東への大量輸送が可能に

→日本、および中国に利権を持つ [4 イギリス]・[5 アメリカ] の危機感を高める

ウ) 1900、清国で [6 義和団] 事件発生

→ロシア、撤兵せず [7 満州] を事実上占領→ [8 韓国] へも影響力を増す

③ 1902、[9 日英] 同盟協定締結→ロシアの対抗勢力として [10 日本] に注目

④ [11 満韓交換] (日露協商) 論と対露開戦論 ([12 対露同志会] など) の対立

⑤ 反戦論・非戦論の出現

[万朝報] = [13 内村鑑三] (キリスト教徒) [14 幸徳秋水] [15 堺利彦] (社会主義者)

→ [16 平民新聞] を創刊

## 6, 日露戦争

① [17 1904] (明治37)年、[18 日露] 戦争開戦

→イギリス・[19 アメリカ] の支持、ロシア国内の混乱→日本に有利に展開

② [20 旅順] 占領・[21 奉天] 会戦での勝利、[22 日本海] 海戦での勝利

ロシアでの [23 ロシア第一革命] 発生、日本での戦費・人員・補給などの負担限界に

↓

③ アメリカ大統領 [24 セオドアローズヴェルト] の仲介により [25 ポーツマス] 条約締結

ア) [26 韓国] に対する日本の指導・監督権を認める

イ) 清国内の [27 旅順] [28 大連] 租借権、[29 南満州] 鉄道/付属の利権譲渡

ウ) 北緯50度以南の [30 サハリン(樺太)] の譲渡

エ) 沿海州、カムチャツカでの漁業権承認

④ 国民の不満爆発→ [31 日比谷焼き打ち] 事件発生

## 7. 韓国併合と日露戦後の国際関係

① 列強の韓国植民地化承認

ア) ロシア…1905 [32 ポーツマス] 条約で韓国に対する日本の指導・監督権を承認

→1907 第一次日露協約でロシアに韓国保護国化を承認さ

イ) アメリカ…1905秘密協定 = [33 フィリピン] 領有の承認と引き換えに日本による韓国保護国化を承認

ウ) イギリス…1905 [34 日英] 同盟の改定 = 仮想敵国を [35 ドイツ] とし、韓国保護国化承認

② 韓国併合への過程

ア) 1904 第一次日韓協約

・日本が推薦する財政・外交顧問を置き、外交事案の協議を認めさせる

イ) 1905 第二次 [36 日韓協約] …韓国の [37 外交] 権を奪い [38 韓国統監] を置く。

→初代韓国統監 [39 伊藤博文]

ウ) 1907 [40 ハーグ密使] 事件…日本の非を世界に訴える

→皇帝を退位させ、第三次日韓協約を強要…韓国の [41 内政権] 権を奪い、軍隊解散

→ [42 抗日義兵運動] の活発化

エ) 1909 義兵闘争の指導者 [43 安重根]、ハルビンで [44 伊藤博文] を暗殺

③ 1910 (明治43) [45 韓国併合] 条約を強要=韓国の植民地化を完成

[46 朝鮮総督府] を置く (初代総督 寺内正毅)

④ 日本の朝鮮「経営」

・ [47 武断] 政治…軍事力を強化し、憲兵によって朝鮮民衆の反発を抑え込む

→そのため、陸軍 [48 二個師団増設] 問題発生→ [49 大正政変] へ

・ [50 土地調査] 事業の実施

土地調査事業…朝鮮全土の土地所有権を調査する事業。しかし、所有権が不明確という理由で多くの農地・山林が没収され、日本人地主等に払い下げられた。これにより多くの農民から土地を奪われ、土地を失った農民たちが、日本や中国東北部(間島地方など)へ移動、在日朝鮮・韓国人を形成していく。

・朝鮮会社令 = 日本人との共同経営を促進、朝鮮人経営の会社設立を妨害

⑤ 1919、[51 三一] 独立運動 (万歳事件)

三一独立運動…ロシア革命やウィルソン米大統領の [52 民族自決] 権発言に影響を受けた朝鮮の知識人が1919年3月1日 [53 独立宣言] を発表、これにこたえた朝鮮民衆が各地で独立万歳を叫び、繰り広げた運動。日本軍は武力による徹底的な弾圧をはかった。

⑥ [54 文化] 政治をとり、民族同化政策をすすめる。

→ [55 産米増殖] 運動など植民地化をいっそうすすめる。

産米増殖運動 = 用水路の整備などで朝鮮での [56 米] の生産を増やし、[57 日本本土] へ移出量を増やそうとした。整備費などの転嫁、生産量より移出量の方が多いため、朝鮮の人々への負担を増し、朝鮮の人々の日本などへの [58 移民] 増加の一因ともなった。